慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	張成沢粛清事件についての一考察
Sub Title	An observation on the incident of the purge of Jang Song Thaek
Author	斎藤, 直樹(Saito, Naoki)
Publisher	慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会
Publication year	2015
Jtitle	慶應義塾大学日吉紀要. 人文科学 (The Hiyoshi review of the humanities). No.30 (2015.) ,p.59- 83
JaLC DOI	
Abstract	This article is designed to examine some issues on the purge of Jang Song Thaek by carefully dealing with (1) what kinds of the person Jang Song Thaek was, (2) what kinds of background and what kinds of developments existed behind Jang's purge, and (3) what kinds of influence the incident would bring about.
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10065043-20150630-0059

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

張成沢粛清事件についての一考察

斎　藤　直　樹

"An Observation on the Incident of the Purge of Jang Song Thaek."

Naoki Saito

Abstract:

This article is designed to examine some issues on the purge of Jang Song Thaek by carefully dealing with (1) what kinds of the person Jang Song Thaek was, (2) what kinds of background and what kinds of developments existed behind Jang's purge, and (3) what kinds of influence the incident would bring about.

2013年12月に北朝鮮の事実上のナンバー 2 といわれた張成沢（チャン・ソンテク）が粛清された事件を伝える報道は記憶に新しい。張成沢とは，金正日（キム・ジョンイル）の実妹にあたる金敬姫（キム・ギョンヒ）と結婚し，若くして金正日の側近となった人物であった。幾度か浮き沈みはあったとはいえ，金正日の懐刀として地歩を固めた張成沢は金正日の晩年，事実上，国政を動かす存在であり，金正日に三男の金正恩（キム・ジョンウン）を継承者にするよう勧めた人物とされる[(1)]。金正日は30歳にも満た

(1)　張成沢による助言について，「金総書記後継に三男・正雲氏決定か，情報筋伝える」『聯合ニュース』（2009年 1 月15日）。「金総書記義弟が決定的影響＝後継体制で「摂政」に―聯合ニュース」『聯合ニュース』（2009年 2 月15日）。

ない金正恩を補佐する後見人役を張成沢と金敬姫に託した。その金正日が2011年12月に急死したことで，張成沢に時代は微笑みかけたかにみえた。ところが，それから二年後の2013年12月に張成沢の突然の失脚，処刑と，想定を超える筋書きが待ち構えていた[2]。その間に何があったのか。本稿は張成沢とはどのような人物であり，張の粛清の背後にはどのような進展があったのかを論じ，その上で張の粛清がもたらすであろう影響について考察する。

第１節　張成沢とはどのような人物であったのか。

（１）駆け出しの頃の張成沢

張成沢は1946年２月16日に生まれたとされる。張成沢は立身出世という意味で誰よりも恵まれた人物の一人であった。張成沢は金日成（キム・イルソン）総合大学に入学した。張成沢は特別，学業成績が優秀というわけではなかったが，芸術サークルで歌や踊りが上手で，カリスマ的な存在であった。張成沢の同級生で金正日の実妹であった金敬姫は張に憧れた。金日成総合大学では先輩格の金正日も一目置いた人物であった。そうした張成沢を疎んじたのは金日成であったとされる。そのために一時，張成沢は元山（ウォサン）経済大学に転校させられた経緯もあるが，金正日の取り計らいで金日成総合大学に戻ることができた。結局，張成沢と金敬姫は結婚した。張成沢はこれにより北朝鮮を支配する金一族の一人となったわけである[3]。

2008年８月に金正日が急遽，脳卒中で倒れたことにより，金正日の側近中の側近であった張成沢は一躍，有力者として浮上した。金正日はまだ二十代後半の後継者・金正恩を補佐する後見人役を張成沢と金敬姫に託した。

---

(2)　12月12日に開廷された国家安全保衛部特別軍事法廷において国家転覆陰謀といった極悪な犯罪を働いた罪で張成沢に死刑判決が下され，直ちに処刑されたことを12月13日に『朝鮮中央通信』が伝えた。同報道について，“Traitor Jang Song Thaek Executed,” *KCNA*, (December 13, 2013.)

(3)　この点について，“Jang Song Taek,” North Korea Leadership Watch,

張成沢は金正恩体制を支える最重要人物の一人と目されたのである。張成沢は北朝鮮の最高政策決定機関の国防委員会副委員長の地位にあり，金正恩に次ぐ事実上のナンバー 2に上り詰めることになった[(4)]。

他方，張成沢は波乱の人生を歩む人でもあった。娘の張琴松（チャン・クムソン）はパリへ留学した。張成沢や金敬姫にとって娘がパリにいつまでもいることは認められるところではなかった。しかし親の求めにかかわらず，張琴松は平壌へ戻ることを拒み，自ら命を絶った[(5)]。

その後，張成沢は金正日の側近として地位を高め，病身の金正日の晩年には，事実上，国政を動かすまでになった。ところが，2013年12月に張成沢は突然の失脚，処刑と，壮絶な最期を迎えることになった。

ところで，その張成沢は1970年代初めから朝鮮労働党にあって職位の低い役職からキャリアを開始した。駆け出しの頃の職務は平壌（ピョンヤン）市朝鮮労働党委員会指導員であった[(6)]。

（2）左遷と復権

その後，金正日の側近としてとんとん拍子でキャリアを積んだが，順風満帆かと思われた張成沢のキャリアは思わぬことで躓くことになった。1978年に張成沢は職位に見合わない盛大な酒宴を設けたことで，これをみかねた金正日は張にお灸を据える意味で，製鉄所の工場長に左遷した[(7)]。

Research and Analysis on the DPRK Leadership."; and "North Korean Media Confirms Promotion of Jang Song-thaek to Senior Post," *Yonhap News*, (December 13, 2007.)「処刑された張成沢氏，男版シンデレラと呼ばれた数奇な人生 … 韓国メディアが報じる」『東京ブレイキングニュース』（2013年12月14日）。

(4) 張成沢の隆盛について，"N. Korea Reshuffle Seen as Part of Succession Plan," *New York Times*, (June 7, 2010.); and "Kim Jong-il Funeral: Kim Jong-un Steps up as Nation Mourns," *Daily Telegraph,* (December 28, 2011)

(5) この点について，*op. cit.,* "Jang Song Taek."

(6) 張成沢の駆け出しの頃の職務について，*op. cit.,* "Jang Song Taek."; and "Leader's Uncle Rose to No. 2 in North Korea," *AP*, (December 13, 2013.)

(7) 張成沢の左遷について，*op. cit.,* "Jang Song Taek."「北朝鮮・張成沢はなぜ

この間，金慶喜は一日も早い夫の復帰を望んだ。加えて，張成沢の復帰に力を貸したのは金正日の長男の金正男（キム・ジョンナム）の実母の成蕙琳（ソン・ヘリム）であったとされる。張成沢はようやく復権を果たした。1982年に朝鮮労働党中央委員会青少年事業部副部長に就任した張成沢はその後，金正日の側近として党内での地位を着実に固めだした。85年に同第一副部長，86年に最高人民議会議員に選任された。89年６月に党中央委員会候補となり，92年に中央委員会委員に推挙された。さらに95年11月に党中央委員会組織指導部において行政を預かる第一副部長に任命された[8]。

（３）「深化組事件」

1994年７月の金日成の死後，最高権力者の地位を継承したものの，95年から四年間続きの大水害とそれがもたらした大飢饉と膨大な餓死者のため，金正日は厳しい立場に立たされた。また金正日は父・金日成に忠誠を誓う古参の勢力に頭を痛めた。金正日は大飢饉の責任者を処罰するだけでなく，同勢力の根絶を目論む必要を感じた。このために公安組織の社会安全部に「深化組」という呼称の捜査機関を設置し，問題のありそうな者達を徹底的に取り締まった。これによって引き起こされた粛清が「深化組事件」であり，同粛清を指揮した人物こそ，張成沢であったとされる。粛清は97年から2000年まで吹き荒れた。その対象者は２万5000人にも達したとされた。その内，粛清による死者は一万人を数え，残りの者は収容所へ放り込まれることになった[9]。

即日処刑？　金正恩を怒らせた「10年前の権力闘争」」『東京ブレイキングニュース』（2013年12月13日）。前掲「処刑された張成沢氏，男版シンデレラと呼ばれた数奇な人生 … 韓国メディアが報じる」。

(8)　張成沢の党組織指導部の第一副部長への任命について，*op. cit.,* “Jang Song Taek.”

(9)「深化組事件」について，「金正恩氏の後見人，張成沢氏は冷血な忠臣　２万５千人粛清の総責任者！」『産経ニュース』（2014年１月14日）。

（4）二度目の失脚と復権

ところが，「深化組」事件の責任者として実力をつけた張成沢はまたしても失脚の憂き目にあった。2003年当時，張成沢は金正日の後継者として長男の金正男を推挙すべく画策した。この背景には，以前に製鉄所に左遷された際，張成沢の復帰のために尽力した金正男の実母・成蕙琳への恩返しの意味があったとされる。しかしこれに猛反発したのが金正恩の実母である高英姫（コ・ヨンヒ）などであった。このため激しい暗闘が繰り広げられ，党中央委員会組織指導部で権勢を誇っていた実力者の李済剛（リ・ジェガン）組織担当第一副部長によって追放されるという，憂き目を張成沢は味わうことになった。2003年６月から，張成沢は消息を絶った[10]。

この間，張成沢の復権を望む金慶喜が金正日に懇願した。李済剛の台頭に次第に脅威を感じ始めた金正日が李済剛を牽制する意味で張成沢を復権させたとされる。2005年12月に処罰が解かれた張成沢は比較的目立たない首都建設部の第一副部長に赴いた。その後，金正日は2007年12月に党中央委員会行政部を復興させ，張成沢を部長にあてた。これにより，張成沢は本格的な復権を果たした[11]。金正日が李済剛の対抗馬として張成沢を重職に据えたとされる[12]。

他方，復権を果たした張成沢は不可解な交通事故に巻き込まれた。2006年10月15日に張成沢が搭乗していた車両に軍用トラックが後ろから突っ込む事故が起きた。これは李済剛による交通事故を偽装した張成沢の暗殺未遂事故であったのではないかと疑われた[13]。

⑽　張成沢の二度目の失脚について，*op. cit.,* “Jang Song Taek.”「拷問，犬刑，密告，政治収容所　恐怖支配強まる金正恩の北朝鮮２」『産経ニュース』（2013年12月23日。）前掲「北朝鮮・張成沢はなぜ即日処刑？　金正恩を怒らせた「10年前の権力闘争」」。

⑾　張成沢の復権について，*op. cit.,* “Jang Song Taek.”「金総書記の義弟が党行政部に昇進，実勢に完全復帰」『聯合ニュース』（2007年11月21日）。「‘張成沢，査定作業を指揮’…ナンバー２が復活？」『デイリーNK』（2008年３月18日）。

⑿　この点について，前掲「金総書記の義弟が党行政部に昇進，実勢に完全復帰」。

（5）張成沢の隆盛

他方，金正日が2008年8月に脳卒中で倒れたことは側近としての張成沢の権勢を一段と押し上げることに繋がった。張成沢は病床に臥した金正日に代わり事実上の国家運営を任されることになった。同じく，金正日の後継者の選任問題が急遽，浮上した。その際，後継者の選任において中核的な役割を果たしたのが張成沢であった。張成沢は三男の金正恩を後継者に選任するよう金正日に助言したとされる[14]。これを受け，金正恩の権力継承が次第に定着した。これと並行するかのように，張成沢の隆盛が始まった。同年4月9日，張成沢は最高政策決定機関である国防委員会委員に推挙された[15]。2010年6月7日に張成沢は国防委員会副委員長に選任されたことで，張の権勢はいよいよ高まった[16]。この選任は金正日の三男・金正恩を金正日の継承者に向けて足固めするための狙いがあったとされる[17]。

その後，2010年9月28日の第三回朝鮮労働党代表者会議を受け開催された中央委員会総会において張成沢は政治局局員候補に任命された[18]。同じく，金正恩は党中央軍事委員会副委員長に推薦された。2011年12月17日に金正日が死去し，張成沢は葬儀委員会の名簿に名を連ねた。

この間，金一族の重臣として金正日の虎の威を借り，張成沢は指導部内

---

⑬　張成沢の交通事故と李済剛の策謀について，*op. cit.,* “Jang Song Taek.”「北朝鮮の交通事故偽装テロ」『東亜日報』（2010年5月10日）。

⑭　張成沢の助言について，「金総書記義弟が決定的影響＝後継体制で「摂政」に―聯合ニュース」『聯合ニュース』（2009年2月15日）。

⑮　張成沢の国防委員会委員への推挙について，“First Session of 12th SPA of DPRK Held,” *KCNA*, (April 9, 2009.); and “Kim’s Heir Apparent Set for Debut in Pyongyang,” *Washington Times,* (September 26, 2010)

⑯　張成沢の国防委員会副委員長への選任について，“Jang Song Thaek Elected NDC Vice-Chairman,” *KCNA*, (June 7, 2010.)

⑰　この点について，“N. Korean Leader Shows up at Parliament, Shakes up Posts: Report,” *Yonhap News Agency,* (June 7, 2010.)「‘3代世襲の断念？それとも牽制？　張成沢氏台頭に憶測’」『東亜日報』（2010年6月9日）。

⑱　張成沢の政治局局員候補任命について，“Members and Alternate Members of Political Bureau,” *KCNA*, (September 28, 2010.)

の政敵達との激しい闘争を演じた。特に病身の金正日から金正恩への後継路線が確定し，その路線を定着させる上で張成沢は絶大な権限を得た。それを背景として，敵対組織の幹部達の粛清に打って出たと推測される。

張成沢と張が取り仕切る党行政部は権力中枢を占める党組織指導部，朝鮮人民軍，国家安全保衛部の幹部達と激しい利害抗争を繰り広げた。この結果，張成沢とライバル関係にあった組織の大物であった人物達が次々と表舞台から消えることにつながった。その中には前述の李済剛党組織指導部第一副部長，柳京（リュ・ギョン）国家安全保衛部副部長，禹東測（ウ・ドンチュク）国家安全保衛部第一副部長，李英浩（リ・ヨンホ）朝鮮人民軍総参謀長などが含まれた[19]。

2010年６月２日，かつて張成沢の失脚に動いたとされる実力者であった李済剛が平壌と元山（ウォンサン）をつなぐ高速道路で交通事故死するという謎めいた事件が発生した。張成沢と長年にわたり敵対関係にあった李済剛は2004年に張成沢が失脚した背後で暗躍しただけでなく，張が巻き込まれた交通事故にも関与したのではないかと疑義が持たれた。これに対し，今度は張成沢が李済剛の交通事故を画策したのではないかと憶測が流れた。いずれにせよ，李済剛が死去したことでさらに張成沢の地位は確固たるものになった[20]。続いて2011年１月，柳京がスパイ罪の疑いをかけられ処刑された[21]。2011年後半には，国家安全保衛部第一副部長を罷免された禹東

---

⑲　この点について，前掲「拷問，犬刑，密告，政治収容所　恐怖支配強まる金正恩の北朝鮮」。また張成沢は中国との商取引を一手に収め，中国との経済協力を大々的に進めたが，外貨獲得競争で朝鮮人民軍幹部の呉克烈（オ・グッリョル）と激しく争った。「左・成沢 vs 右・克烈…北朝鮮は‘第２人者’パワーゲーム中（１）」『中央日報』（2010年７月５日）。「張成沢―呉克烈の外貨稼ぎ競争…誰が権力を掴むのだろうか」『デイリー NK』（2010年10月６日）。

⑳　李済剛の死去について，前掲「拷問，犬刑，密告，政治収容所　恐怖支配強まる金正恩の北朝鮮」。「北，李済剛の死亡で張成沢の独走時代」『デイリー NK』（2010年６月３日）。「北朝鮮の要職幹部が相次ぎ死亡，権力闘争説も」『聯合ニュース』（2011年１月24日）。

㉑　柳京の粛清について，前掲「拷問，犬刑，密告，政治収容所　恐怖支配強ま

測が自殺を遂げた[22]。これに加え，2012年７月に李英浩は人民軍総参謀長を解任された。李英浩は朝鮮人民軍にあって軍の利権獲得に奔走した人物であった。しかし張成沢は金正恩を動かし，不可侵とも言えた朝鮮人民軍の利権を侵食しようとした。これに対し，李英浩と配下の者達は張と党行政部に対し激しい恨みをもった。李英浩の解任が張成沢に対する人民軍の敵対心を一層強めたことにつながった[23]。

（６）張成沢，訪中

この間，中朝経済協力に活路を見出そうとした張成沢は事実上，国政を動かす立場にあった。特に張成沢が率先して推進したのは中朝国境地帯に経済特区を設立し，中国から大規模の外資を呼び込むという事業であった。2009年11月30日に始まったデノミ政策が無残な失敗に帰した結果を受け，外資導入政策に活路を張成沢が見出そうとした。2011年６月上旬に黄金坪（ファンググムピョン）・威化島（ウィファド）と羅先（ラソン）に「共同自由貿易地帯」を設立する中朝合意が成立した[24]。

これに伴い，「羅先経済貿易地帯」と「黄金坪・威化島経済地帯」の共同運営委員会代表団団長に張成沢が就任した。2012年８月に同代表団団長として訪中を行った張成沢は胡錦涛（フー・ジンタオ）中国国家主席や温家宝（ウェン・チアパオ）首相など中国指導部の幹部達から金正日に匹敵

る金正恩の北朝鮮」。

(22) 禹東測の自殺について，同上。

(23) 李英浩の解任について，同上。

(24) 中朝合意について，Robert Kelley, Michael Zagurek, and Bradley O. Babson, “China’s Embrace of North Korea: The Curious Case of the Hwanggumpyong Island Economic Zone,” *38 North*, U.S.-Korea Institute, Johns Hopkins University School of Advanced International Studies, (February 19, 2012.); “DPRK Decides to Set up Hwanggumphyong and Wihwa Islands Economic Zone,” *KCNA*, (June 6, 2011.); and “Hwanggumphyong and Wihwa Islands Economic Zone to be Set up,” *KCNA*, (June 7, 2011.)

する破格の待遇を受けた。このことは，同指導部が中朝経済協力を機軸とした中朝関係の鍵を握る重要人物であると張成沢をみなしたことを物語った[25]。

こうして張成沢は朝鮮労働党中央委員会行政部長，朝鮮労働党政治局委員，国防委員会副委員長などの要職を手中に収め，金正恩指導部で事実上の権力を掌握し，しかも中国指導部から北朝鮮において最も重要な人物の一人であると認知されることになった。他方，こうした張成沢の動きは北朝鮮の支配層の全てから必ずしも歓迎されるものではなかった。

（7）張成沢，国家体育指導委員長就任

2012年11月4日に党中央政治局拡大会議が開催され，国家体育指導委員会が新設され，張成沢の初代委員長就任が決まった[26]。ところが，この人事異動は張にとってむしろ陰りとなったのではないかとの解釈がある。張成沢を同委員長に就任させることで，金正恩は政治，経済，国防など重要な政策審議から張成沢を外そうと目論んだのではないかともみられている[27]。

2012年12月12日に強行されたテポドン2号発射実験を痛烈に非難する国連安全保障理事会決議2087が2013年1月22日に全会一致で採択された。同決議への対応を念頭に，最高指導部高官会議が開催されたが，国防委員会

---

(25) この点について，“Hu Jintao Receives DPRK Delegation,”*KCNA*, (August 18, 2012); “Chinese Premier Meets Delegation of DPRK-China Joint Guidance Committee,” *KCNA*, (August 18, 2012.) ; “China Rolls out Red Carpet for N. Korea’s Jang Song-taek,” *Chosun Ilbo,* (August 17, 2012.); and “President Hu Jintao Meets with DPRK Delegation of the Joint Steering Committee for Developing Two Economic Zones,” Ministry of Foreign Affairs of the People’s Republic of China, (August 17, 2012.)

(26) 張成沢の国家体育指導委員会委員長への就任について，“Report on Enlarged Meeting of Political Bureau of WPK Central Committee,” *KCNA*, (November 4, 2012.)

(27) こうした推測について，Alexandre Mansourov, “North Korea: The Dramatic Fall of Jang Song Thaek,” U.S.-Korea Institute at SAIS, (December 9, 2013.)

副委員長の地位にあった張成沢にお呼びがかからなかった。このことは国策の基本方針を巡り金正恩と張成沢の関係に亀裂が生じたのではないかと疑わせるものであった[28]。

しかも2013年５月後半に，金正恩は張成沢ではなく崔竜海（チェ・リョンヘ）朝鮮人民軍総政治局長を特使として中国へ派遣した。党行政部長として中朝経済協力を推進する張成沢の頭越しに崔竜海の派遣が行われたことは重大な意味を持っていた。このことは金正恩がもはや張成沢を信頼していないのではないかとの疑義を抱かせることにつながった[29]。

この間，張成沢の側近達が大失態を演じた。張成沢と側近達の粛清に向けて彼らの失態を暴こうとしていた金英哲（キム・ヨンチョル）朝鮮人民軍偵察総局長らの捜査網に捕まるという結果となった。2013年７月に張成沢が開いた盛大な酒宴の席で，側近の李龍河（リ・ヨンハ）党行政部第一副部長，張秀吉（チャン・スギル）党行政部副部長が「張部長同志，万歳。」と張を礼賛した。「万歳」は最高権力者のみに許されたものであり，張成沢に対し「万歳」といったことは，張こそ最高権力者を企むものとみなされる格好の口実となったのである[30]。

（８）張成沢と朝鮮人民軍の利権争い

張成沢と張が取り仕切る党行政部は主要貿易相手国である中国との経済協力を大々的に進め，中国との商取引を一手に収めようと目論んだ。これに伴い，張成沢らは朝鮮人民軍と外貨獲得競争で激しく凌ぎを削ることを余儀なくされた[31]。

---

(28)　こうした見方について，*Ibid.*

(29)　こうした憶測について，*Ibid.*

(30)　この点について，「張成沢氏の粛清引き金　宴会で取り巻きが「万歳！」の痛恨ミス」『NEWS ポストセブン』(2014年１月16日)。

(31)　張成沢と朝鮮人民軍幹部との外貨獲得競争について，前掲「左・成沢 vs 右・克烈…北朝鮮は‘第２人者’パワーゲーム中（１）」。前掲「張成沢―呉克烈の外貨稼ぎ競争…誰が権力を掴むのだろうか」。

結局，外貨獲得競争は決定的局面を招くこととなった。これは北朝鮮西部沿岸漁業を巡る利権争いに起因すると言われる[32]。漁業権は元々，朝鮮人民軍にとって重要な利権の一部であった。漁業権による貴重な外貨収益は朝鮮人民軍に流れ，回り回って軍幹部達を経て金一族へと流れる仕組みであった。

2011年12月に金正恩が権力を継承したとき，危機的様相を呈する経済の再生の必要を説く張成沢の求めに応じ，金正恩は軍の利権の一部を内閣に移管した。この結果，漁業権は張成沢の取り仕切る党行政部が握ることになった。張成沢は漁業権の収益を自らの懐である党行政部に流した。これは人民軍幹部の怒りを買わずにはおかなかった。人民軍幹部達は漁業権を取り戻してくれるよう金正恩に懇願したとされる。これを受け，150名もの人民軍兵士が魚介物加工工場に押しかけたが，張成沢らは漁業権を手渡すことを拒否したため，人民軍兵士と張勢力の間の銃撃戦に発展した。

その後，連絡を受け憤激した金正恩は張成沢に対し漁業権を軍に返還するように指示した。これに対し，張成沢と側近達は頑なに拒んだ。張成沢のこうした行動を重大視した金正恩は，朝鮮人民軍に対する挑戦であるだけでなく自らの権威に対する無礼な挑戦であると受け止めた。こうして漁業権は人民軍に戻った。

（9）激怒する金正恩

既述のとおり，張成沢の側近達が酒宴の席で張を持ち上げた報告を受けた金正恩の怒りは頂点に達した。9月頃に秘密警察に当たる国家安全保衛部に最高司令官命令第一号，作戦名「ポップン（爆風）」を金正恩は指令したとされる[33]。指令を受け，張成沢の側近であった李龍河と張秀吉が逮

---

(32)　同利権争いについて，“Korea Execution is Tied to Clash over Businesses,” *New York Times*, (December 23, 2013.)

(33)　金正恩の指令について，前掲「張成沢氏の粛清引き金　宴会で取り巻きが「万歳！」の痛恨ミス」。

捕された。他方，張成沢は軟禁処分となり，張の勢力下にある7000人以上が拘束されたとされる[34]。

その上で，激怒した金正恩は泥酔状態で張成沢の側近の処刑を命じたとされる。李龍河と張秀吉は11月下旬に処刑された[35]。李龍河は職権を濫用したと断罪された一方，張秀吉が分派を組織しようとし，党の唯一的指導体系を拒絶したのが罪状とされた。張成沢の側近が処刑された後，張は公に姿を現さなくなった。張成沢自身に糾弾の矛先が向けられるのは時間の問題となった。いよいよ最終段階に近づいた。12月３日，張成沢が失脚する事態へと発展した。

12月３日に張成沢は全役職を剥ぎ取られた[36]。しかも張成沢の姿を映した以前のニュース映像から張の姿が削除されていたことが，12月７日に『朝鮮中央テレビ』の再放映で明らかとなった[37]。

12月９日の『朝鮮中央通信』は，前日８日に開かれた朝鮮労働党政治局拡大会議の決定を伝えた。張成沢は全役職を解任されると共に，党から除名処分となった[38]。９日午後放送の『朝鮮中央テレビ』は，張成沢が党政治局拡大会議場から連行されるところを映し出した。張成沢のような政府高官が会議の席上で逮捕，連行される場面をメディアが放送したのは初めてであった[39]。

---

(34) この点について，同上。

(35) 李龍河と張秀吉の粛清について，“North Korean Leader’s Uncle Likely Removed from Power: Spy Agency,” *Yonhap,* (December 3, 2013.)

(36) この点について，“North Korean Leader’s Powerful Uncle Dismissed – Seoul Media,” *Reuters,* (December 3, 2013.)

(37) この点について，“Family Affair: Kim Jong Un Wipes His Uncle from North Korea’s History,” *The Guardian,* (December 9, 2013.)

(38) 張成沢の解任について，“Report on Enlarged Meeting of Political Bureau of Central Committee of WPK ,” *KCNA,* (December 9, 2013.)

(39) 張成沢の逮捕連行について，“Jang Song Thaek Purge Confirmed amid Rumors of His Execution,” *NK News,* (December 9, 2013.); and “Jang Arrested on State Television,” *Daily NK,* (December 9, 2013.)

第２節　張成沢粛清事件の概要

（１）粛清

2013年12月12日に開廷された国家安全保衛部特別軍事法廷において張成沢が国家転覆陰謀行為を働いたとして死刑判決が下され，即日処刑されたことを13日の『朝鮮中央通信』が伝えた[40]。同報道によれば，「朝鮮民主主義人民共和国国家安全保衛部特別軍事裁判所は，被告張成沢が敵と思想的に同調して北朝鮮人民の主権を転覆させる目的で行った国家転覆陰謀行為が共和国刑法第60条に相当する犯罪を構成するということを立証し，凶悪な政治的野心家，陰謀家，希代の反逆者である張成沢を革命と人民の名で峻烈に断罪し，共和国刑法第60条に準じて死刑に処すると判決した。」

国家安全保衛部特別軍事法廷の判決文を伝える報道を読むと，張成沢と側近らが悪行の限りをつくした悪辣な輩であり，失政を重ねた愚か者であると印象付けようとした意図が汲み取れる。これほど誹謗中傷を並べられた文言を前にすると，張成沢達が事実無根の濡れ衣を着させられ，非業の最期を遂げた感を覚えなくもなく，また張成沢達が極悪の抑圧体制の下であたかも殉教者となったかのような印象も与える。判決文の中の罪科の真偽を含め，実際はどうであったのか。

（２）罪状

・国家反逆罪―政変の策謀批判

張成沢が罪状の一つとして金正恩を打倒し権力を奪取しようと目論んだとして，その政変に向けて立てた道筋まで張成沢が認めたとされた。報道によれば，張成沢は審理の過程で次のように自供したとされた。「『私は国の経済実態と人民の生活が破局的であるにもかかわらず，現体制が何の対策も立てることができないという不満を軍隊と人民が抱くようにしようと

---

(40)　同報道について，“Traitor Jang Song Thaek Executed,” *KCNA*, (December 13, 2013.)

試みた。・・クーデターの時期ははっきりと定めていなかった。しかし，経済が完全に破産し，国家が崩壊直前に至れば，私の部署とすべての経済機関を内閣に集中させて私が首相になろうと思った。私が首相になった後は，今までいろいろな名目で確保した莫大な資金で生活問題を解決してやれば人民と軍隊は私の万歳を叫ぶであろうし，クーデターは順調に成功するものと打算した』」[41]。

上記は審理の過程で張成沢が自白したこととされている。張成沢が権力奪取に向けてこのような道筋を実際に描いていたかどうか不明である。張成沢が自供を迫られ，このように供述し，法廷で認めたのではなかろうか。

・「売国行為」批判―中国との経済協力への批判

張成沢が断罪された罪状の一つは外国，特に中国との経済協力への痛烈な批判であった。報道によれば，「張成沢は腹心らに命じ石炭や貴重な地下資源をむやみに売却しようとした。しかし腹心らが仲買人にだまされて多額の借金を負った。去る５月にその借金を返済するとして羅先経済貿易地帯の土地を50年の期限で外国に売ってしまう売国行為も躊躇しなかった。」[42]

国名こそ明らかにされていないが，張成沢が売国行為を行ったとされる相手国は中国を指している。この辛らつな批判は直接的には外資導入を目論んだ張成沢や経済特区を通じた外資導入政策に向けられたものであったが，間接的に相手国への批判とも受け取られる。すなわち，張成沢や側近達への糾弾にとどまらず外資導入政策や中国との経済協力路線への痛烈な指弾でもあったと解釈できる。

こうした文章の背後には，張成沢が率先して進めた中国との外資導入政策に対し露骨な反発があったことを示唆している。実際に張成沢と党行政部の人脈は金正恩体制の支配層の中にあって，とりわけ中国との経済協力

---

(41) この点について，*Ibid.*

(42) この点について，*Ibid.*

を推進した中国通であった。張成沢は「羅先経済貿易地帯」と「黄金坪・威化島経済地帯」の共同運営団長として中国との経済協力を推進し，二つの地帯を新たな経済特区として大規模の外資導入を実現しようとした。2002年７月に発進された経済改革の「経済管理改善措置」と外資導入路線が頓挫を余儀なくされる中で，朴南基（パク・ナムギ）が中心となりデノミを断行して国民の困窮を招き失敗に帰した。その上で，危機的な経済の打開に向けて改めて張成沢は外資導入を進めた経緯がある。経済的苦境に立たされている北朝鮮にとって外資導入は合理的な路線であったと考えられる。

とはいえ，張成沢が改革・開放を真摯に推進しようとしたかどうかは必ずしも定かではない。自ら金一族の重臣としてあたかも特権階級であるかのように振舞ってきた張成沢が北朝鮮の体制基盤にメスを入れるような改革・開放についてどこまで真剣であったかは多少ならずとも疑問である。むしろ張成沢は中国などを初めとする外部世界との経済協力に活路を見出すことで，また中国との経済協力を背景として中国指導部の虎の威を借りる形で，多くの利権を自ら取り仕切る党行政部の下に置こうとした行動であったと見て取れた。

他方，いかなる理由であれ中国との経済協力に邁進することは，中国指導部の要望を多かれ少なかれ受け容れざるをえないことに通じる。それはとりもなおさず，改革・開放の真摯な履行ということになる。張成沢が中国との経済協力路線を突き進もうとしたことは中国から真摯に改革・開放を実施することが遅かれ早かれ求められたと推測できた。

また張成沢は外部世界との軋轢を勢い招きかねない核兵器開発や弾道ミサイル開発には消極的であったとされる。中国とすれば，長年に及び議長国として心血を注いできた６ヵ国協議（the Six Party Talks）に北朝鮮を復帰させたいと考えていたであろう。中国指導部の求めに，張成沢は何らかの形で応じざるをえなかったと推察できる。そうした路線は中国との経済協力を通じ危機的な状況を打開しようとする見方からすれば，極めて合

理的な路線であった。

しかし核兵器の放棄を巡る協議などに活路を見出そうとした張成沢の動きは先軍政治の御旗の元で強大な既得権を握る朝鮮人民軍幹部にとってみれば真に不愉快千万であり，脅威以外の何ものでもないと映った[43]。彼らからみれば，独自ルートで中国と経済協力関係を深め，外資導入を通じ膨大な外貨を稼ぎ，それを懐に入れようとする張成沢と党行政部のやっていることは売国行為であり，彼らは売国奴以外の何者でもなかったということになる。

張成沢達の都合のよいようにやらせておけば，中国指導部のよいように動かされかねない。この結果，遠からずして北朝鮮は中国の傀儡になりかねない。これは金体制内において反中国的勢力が隠然とした影響力を持ち，反中国的な批判に対し張成沢が殊のほか脆弱であったことを物語る。この結果，張成沢は敵対勢力と利権を巡り激しく衝突を繰り返しただけでなく，国家の進むべき根幹的な路線を巡り厳しく対立したとも言える。

近年，発進した新たな外資導入政策を指弾する内容とも受け取られ，中国などからの反発の可能性を全く斟酌していない文言である。今後，中国との経済協力を軸とする外資導入政策が前進するであろうか。中国指導部はこのような文言に甘んじてまで北朝鮮へ大規模な外資導入を行うであろうか疑問が残る。

・「経済的混乱」招来への批判

同報道によれば，「2009年に希代の反逆者であった朴南基をそそのかして数千億ウォンの朝鮮通貨を乱発して深刻な経済的混乱を起こし，民心が乱れるように背後で操った張本人もまさに張成沢である。」[44]

大規模な外資導入を通じ危機的段階にある経済再生に活路を見出そうと

---

(43) こうした見方について，*op. cit.*, “North Korea: The Dramatic Fall of Jang Song Thaek.”

(44) この点について，*op. cit.*, “Traitor Jang Song Thaek Executed.”

した張成沢が2009年11月のデノミ断行による経済的混乱を招来させた張本人であったというは事実関係を無視した主張である。北朝鮮経済を取り囲む厳しい現状の下で，張成沢が進めようとした路線は極めて合理的な路線であったといえる。これが判決文の一部であるとすれば，事実無根の内容である。

・「不正腐敗行為」への批判

同報道によれば，「張成沢は，政治的野望の実現に必要な資金を確保するために様々な名目で金もうけを奨励し，不正や腐敗行為をこととしてきた。張成沢は我々の社会に安逸で気が緩み，無規律的な毒素を広めることの先頭に立った。」[45]

張成沢や側近達の罪状として浴びせられた数々の汚職の真偽は別にして，張達が清廉潔白な人物であったかは多分に疑義の残るところであった。金正日時代から金正日の側近として張成沢が特権階級であるごとく利権を貪るかのように振舞ったことは公然とした事実である。張成沢が私欲の限りを尽くしていたと断罪されたことは必ずしも驚くにあたらないとはいえ，このことは張成沢や側近達だけでなく，彼らを粛清した側の者達もまた多かれ少なかれ同様であり，不正腐敗行為を常としているのは程度の差こそあれ，金体制の支配層に共通する病巣である。

・張成沢と党行政部への「反党・反革命分派」批判

以上において処々の罪状が並べられたが，その真偽には少なからず怪しいものがある。明らかであったのは，党行政部長として行政部を取り仕切った張成沢と側近達は利権の獲得を巡り，朝鮮人民軍幹部や党組織指導部幹部達と露骨な抗争を続けたことである。張成沢に浴びせられた下記の文言はそうした張の対立勢力の視点からの厳しい断罪である。

---

(45)　この点について，*Ibid.*

「張成沢は，党の唯一的指導を拒否する重大事件を発生させて追い出された側近とおべっか屋達を狡猾な方法で数年間に自分の部署と機関に雇い入れ，前科者，経歴に問題がある者，不満を抱いた者達を系統的に自分の周りに待らせ，その上に神聖不可侵の存在として君臨した。」[46]

金正恩体制内で権力と利権を巡る激しい暗闘が繰り広げられたことは確かであった。金一族の重臣としてまた金正日の側近として金正日の虎の威を借りた張成沢は，指導部内の政敵達に対し粛清を断行してきた人物であった。特に病身の金正日の晩年，金正日から金正恩への後継の路線が確定し，その路線を定着させる上で，張成沢は多大な役割を演じたことで絶大な権限を得た。それを背景として，指導部内で張成沢が取り仕切る党行政部が利権を巡り敵対する朝鮮人民軍，党組織指導部，国家安全保衛部の幹部達と激しい抗争を繰り広げた。金正恩への権力継承を通じ絶大な力を得た張成沢が，2010年頃から敵対機関の幹部達の粛清に打って出たと推測される[47]。この結果，張成沢と敵対関係にあった大物達が次々と表舞台から消えることにつながった。既述のとおり，これには李済剛，柳京，禹東測，李英浩などが含まれた[48]。

したがって，日頃から朝鮮人民軍，党組織指導部，国家安全保衛部の幹部達はそうした張成沢と行政部の人脈を粉砕すべく準備周到に反撃に打って出る機会を探っていた。そこには張勢力との利権を巡る激しい利害対立があり，張に対する私怨も重なった。彼らに願ってもない機会が訪れたのは張成沢と金正恩の関係が2012年12月頃からギクシャクしだし，張が次第に正恩から遠ざけられたことである。父・金正日が後見人として据えた張成沢は，最高権力者である金正恩にとって当初は助けになった。とはいえ，

---

(46) この点について，*Ibid.*

(47) こうした推測について，前掲「拷問，犬刑，密告，政治収容所　恐怖支配強まる金正恩の北朝鮮」。

(48) この点について，「張氏処刑を主導　党組織指導部　強力な権限１」『産経ニュース』（2013年12月28日）。前掲「拷問，犬刑，密告，政治収容所　恐怖支配強まる金正恩の北朝鮮」。

金正恩の後見人として日々権力を強大化させただけでなく，党行政部の長として利権の確保に奔走すると共に対立勢力と利権争いを激しく繰り広げ，最高権力者である自分に忠誠を誓わないばかりか，あたかも最高権力者であるがごとく振舞う張成沢は金正恩にとって日々疎い存在になった[49]。

実際に，2012年12月の後半以降，金正恩は張成沢を遠ざけるようになるに及んで，これには張も焦燥感を抱いた。これは張成沢の敵対勢力にとってまたとない反撃の機会の到来を意味した。粛清の背後で暗躍したのは，前述の崔竜海，呉克烈（オ・グッリョル）国防委員会副委員長，超延俊（チョ・ヨンジュン）党組織指導部第一副部長や金英哲（キム・ヨンチョル）朝鮮人民軍偵察総局長であったとされる[50]。

このことは朝鮮人民軍と党組織指導部が中心となり張成沢とその人脈の粛清を断行したという見方を裏付ける。金一族の重臣であった張成沢に対し金正恩が毅然として処分を行うことを余儀なくされたと推測される。こうした見方に立てば，金正恩は朝鮮人民軍，党組織指導部，国家安全保衛部と利害関係を一致する呉越同舟の集団によって動かされたことになる。その中でも人民軍の意向に逆らうことは，自らの権力基盤に跳ね返りかねない危険な行為であった。そこにもってきて，張成沢との関係が日々悪化する中で，彼らに同調せざるをえなかったとみることができよう。こうしてみると，金正恩が張成沢やその側近などの粛清を承認した格好となった[51]。

しかも金正恩にとって特に気に入らなかったのは，張成沢が中国当局の

---

(49)　こうした推測について，「金正恩，張成沢勢力粛清で権力固め（１）」『中央日報』（2013年12月４日）。

(50)　この点について，「張成沢氏の失脚・処刑　軍実力者の崔竜海氏らが主導か」『聯合ニュース』（2013年12月13日）。「金正恩側近「内部標的作って統治を」…張成沢粛清の建議説（１）」『中央日報』（2013年12月12日）。「北序列２位失脚：張成沢氏と権力闘争，崔竜海氏とは」『朝鮮日報』（2013年12月４日）。

(51)　こうした解釈について，「金正恩側近「内部標的作って統治を」…張成沢粛清の建議説（２）」『中央日報』（2013年12月12日。）

保護の下に置かれている金正日の長男・金正男との親交が厚かったこともあったとみる観測がある。かりにそうであったとしても，このことが粛清にどれほど影響を与えたかは明らかではない[52]。

・張一族の粛清

張成沢の粛清は金正恩体制内の指導部の対立が極めて激しかったことを物語った。粛清の波は張成沢の親族にも向けられた。12月13日午後10時ごろ，張成沢の一族が多数居住する平壌市の平川（ピョンチョン）地区へ国家安全保衛部員が入り，張の親族達を連れ去った。その多くは政治犯収容所へ送られたとされる[53]。

第３節　張成沢粛清事件の影響

（１）独裁体制と粛清

張成沢とその側近を初めとする人脈や張の親族に向けられた粛清は北朝鮮の創建者であった金日成が1950年代に断行した粛清を想起させる壮絶な粛清となった[54]。実際に張成沢の粛清は，金日成がかつて南労党派，ソ連派，延安派など朝鮮労働党内の政敵達に対し断行した粛清を想起させざるをえない[55]。

1960年代の終わりまで続いた粛清により金日成の一人独裁体制が完遂を

⑸② この点について，*op. cit.*, “North Korea: The Dramatic Fall of Jang Song Thaek.”

⑸③ 張成沢の親族の粛清について，「〈北朝鮮〉張成沢氏の親族数百人を収容所に強制移送か」『アジアプレス』（2013年12月24日）。「張成沢氏の親族数百人が逮捕，政治犯収容所送りか―英メディア」『レコード・チャイナ』，（2013年12月23日）。

⑸④ この点について，“Execution of Kim Jong Un’s Uncle Recalls Grandfather’s Lethal Era,” *NBC News*, (December 13, 2013.); and “Execution Sign of a Regime on the Edge,” *Sydney Morning Herald*, (December 13, 2013.)

⑸⑤ 金日成の政敵に対する粛清について，斎藤直樹『北朝鮮危機の歴史的構造 1945-2000』（論創社・2013年）235-242頁。

みた。そうした独裁体制は粛清によって完遂したといっても過言ではなかった。金日成は独裁体制を完成するまで壮絶な権力闘争を繰り返した。それは粛清に次ぐ粛清であった。

また金日成の溺愛の下で金正日が権力者の道を歩んだとはいえ，金正日への権力継承は確実に保証されたものではなかった。金正日も目の前に立ちはだかるものに対し粛清を逡巡することはなかった。金正日にとって，邪魔な存在であったのが金日成の実弟で金正日の叔父にあたる金英柱（キム・ヨンジュ）であった。金英柱の追放を目論んだ金正日は絶大なる呉振宇（オ・ジンウ）人民武力部長（国防大臣）の力を借り，人民軍内の叔父に近い人脈を徹底的に削ぎ落とした。73年９月の朝鮮労働党中央委員会第五期第七回総会で中央委員会書記局書記の座を叔父から奪うことに成功した[56]。

金正日にとってさらなる課題であったのは「苦難の行軍」であった。この間，親金日成派の残党の粛清を大々的に進めたとされる。1994年７月の金日成の死後，金日成の地位を継承したものの，1995年から４年間にわたり大水害が続発し大飢饉と膨大な数に上る餓死者が発生したため金正日は厳しい立場に置かれた。既述のとおり，その間金正日は父・金日成に忠誠を誓う勢力に手を焼いた。そこで，金正日は大飢饉の責任者を処罰するだけでなく，同勢力の根絶を目論んだ。これによって引き起こされた粛清が「深化組事件」であり，同粛清を指揮した人物こそ，張成沢であったことは既述のとおりである[57]。

祖父・金日成，父・金正日の二人の金は自身の権力基盤に刃向う者達に対し仮借なき粛清を続けながら，自身の権力基盤の確立と安定を図った。その意味で，金正恩が叔父にあたる張成沢に対し刃を向けたことも理解されよう。金日成に始まり金正日を経て金正恩に至るまで三代の金体制を通

⑸⑹　金正日による金英柱の追放の画策について，同上，406-407頁。

⑸⑺　「深化組事件」について，前掲「金正恩氏の後見人，張成沢氏は冷血な忠臣２万５千人粛清の総責任者！」

じ一貫して流れるのは独裁体制の確立とその堅持のためには仮借なき粛清を常としたことである。

（２）粛清事件の影響

しかも張成沢が率先した中国との経済協力路線は少なくとも2013年12月に張の突然の粛清によって再検討を余儀なくされた。既述のとおり，中国との経済協力を機軸として外資導入を推進しようとした張成沢は金正恩体制の中で極めて重要人物であると中国指導部に映った。したがって，張の粛清は中朝関係にとってよいはずがなかった。中国指導部が金正恩に望んでいることは，先軍政治への邁進は外部世界との軋轢を生むことを理解し，できるだけ軍事挑発，核兵器計画，ミサイル開発計画を控えていただきたいことである。

習近平（シー・チンピン）指導部にとっても胡錦濤指導部と同様に，北東アジア，朝鮮半島での安定した国際環境は確保されなければならない。突発的な北朝鮮の崩壊は想定不能の事態を引き起こすゆえに是が非でも避けたい。この意味で，胡錦濤時代の対北朝鮮路線から抜本的な変更はない。

張成沢が主導した路線は中国指導部の思惑と合致した。張成沢は，中国との経済協力を推進しただけでなく核兵器開発計画には消極的な立場をとっていた。軍事挑発路線が中国との経済協力を阻害するだけでなく，発言力や利害争いで人民軍の優位が確保されると張成沢が判断していたからであった。また張成沢を北朝鮮の核開発に歯止めかけるために重要な人物として中国指導部は捉えた。したがって，中国当局は粛清を断行した金正恩に対し穏やかであるはずはなかった[58]。

少なくとも短期的には中朝関係がどのように推移するのか推測することは難しい。中国指導部としても，改めて北朝鮮との関係が一筋縄ではいかないことを痛感させられた格好となった。張成沢の粛清は北朝鮮の経済再

⑸⑻　中国当局の思惑について，「中国高官「張成沢処刑は中国を無視する行為」『東亜日報』（2013年12月21日）。

生に向けて邁進しようとした経済協力路線にとって痛打となった。これまた，金正恩に改革・開放を望んだ中国指導部にとって著しい後退であることは確かである[59]。

結語―金正恩の一人独裁体制の完遂

金正日の晩年，側近中の側近として金正日の厚い信任の下で，張成沢は最大限の裁量を手中に収め自在に自身の路線を展開できた。既述のとおり，張成沢は朝鮮人民軍，党組織指導部，国家安全保衛部と激しい利権獲得争いを繰り広げ，その幹部達を粛清してきた人物であった。金正恩体制が発足した当初，若く未熟な指導者の後見人としてさらなる裁量権を得たが，金正恩の目に張成沢がやりたい放題であるかのように映るようになった。張成沢の行動に嫌悪感を抱き始めた金正恩は張を次第に遠ざけた。このことは張成沢とその勢力に敵対するこれらの組織の幹部達にとって千載一遇の機会の到来を意味した。張成沢の排除に向け温度差はあれ，これらの組織の幹部達と金正恩は利害の一致をみたのである。彼らは周到に準備を重ね，粛清の機会を狙った。これに張成沢と側近達はうまく嵌った格好となった。金正恩が張成沢の粛清を承認したことは既述のとおりである。かりに後見人の立場であったとしても，忠誠を誓わない者や出過ぎた行動をとる者は，粛清対象となることを張成沢の粛清が如実に物語った。

その張成沢と張が率いる人脈が駆逐されたことで，金正恩の権力基盤はさらに強化されたかにみえる。金正恩に対し毅然と物申すものはいなくなったともみることができる。朝鮮労働党第一書記，国防委員会第一委員長，朝鮮労働党中央軍事委員会委員長，朝鮮労働党中央委員会政治局常務委員，朝鮮人民軍最高司令官といった肩書上の権限は全て金正恩に集中している。

かつて張成沢が後見人として金正恩を支えたように，張成沢の粛清後に金正恩を支えるのは誰であろうか[60]。張成沢の粛清において一役買った朝

---

(59) この点について，“Jang’s Fall won’t Exert Significant Influence on East Asian Dnamics,” *Global Times*, (December 9, 2013.)

鮮人民軍幹部や党組織指導部幹部の面々が有力であろう。他方，張成沢の粛清に向けて野合したとされる崔竜海，呉克烈，金英哲，超延俊らの面々は金正恩とどのような関係を維持するのか[61]。金正恩はこれらの強大な組織と蜜月の関係を維持せざるをえない。

金正日時代に増して金正恩体制の権力構造は不透明で不確実であり，権力基盤が盤石であると言い難いのかもしれない。権力基盤を盤石にするためには金正恩はこれらの組織・機関，その中でも朝鮮人民軍と蜜月の関係を続け，それによって自身の体制の確固たる基盤を構築したいところであろう。その結果，朝鮮人民軍が一段とその存在感を増し，その権益確保に躍起となる金正恩が一層強硬な路線へと傾く可能性が推測されよう。

ところが，金正恩が人民軍と手を組んでいる限り，軍事挑発路線が優先され，中国や韓国との経済協力路線はなかなか進捗しない。最近，金正恩が基本路線として経済再生と先軍政治の双方を掲げているが，この二つは本質的に相反する性格のものである。朝鮮人民軍の利害を最優先させた先軍政治を邁進するだけでは行き詰ることは明らかであり，張成沢が推進した中国との経済協力路線を遅かれ早かれ踏襲しなければならない。しかし経済協力路線の責任者は程度の差こそあれ，人民軍との敵対関係に追い込まれた張が直面した板挟みに巻き込まれる可能性がある。

その間，振幅の激しい振り子のように金正恩の路線は変更を余儀なくされるであろう。金正日が金日成の後を継承した際，表では遺訓統治を掲げながらも，親金日成派の残党を徹底的に粛清するという「深化組事件」を起こした。皮肉にも粛清を主導人物こそ金正日の側近であった張成沢であった。金正恩が表向き，金正日の遺訓統治に肖っているとしても，親金正

---

(60) 張成沢の粛清後に有力視されたのは崔竜海であった。この点について，“Is Choe Ryong-hae Now N. Korea's Most Powerful Man?” *Chosun Ilbo*, (December 19, 2013.)

(61) 張成沢の粛清に向けた野合について，「張氏処刑を主導　党組織指導部　強力な権限１」『産経ニュース』（2013年12月28日）。“Kim Jong-un's Brother Led Arrest of Jang Sung-taek: Source,” *Want China Times*, (December 12, 2012.)

日派の残党ともいえる者達に触手を伸ばそうとしているとみることもできる。張成沢の粛清はそうした観点からも位置付けることが可能であろう。この文脈でみると，張成沢の粛清に続く第二，第三の粛清はありうる。このことは金正日の葬儀で代表を務めた七人の内，張成沢を含め五人がすでに排除されていることからも窺える[62]。

62　この点について，「〈張成沢氏失脚説〉金正日の霊柩車７人のうち軍人は全員姿消す…党員２人だけ残る」『中央日報』（2013年12月４日）。